

かかわる

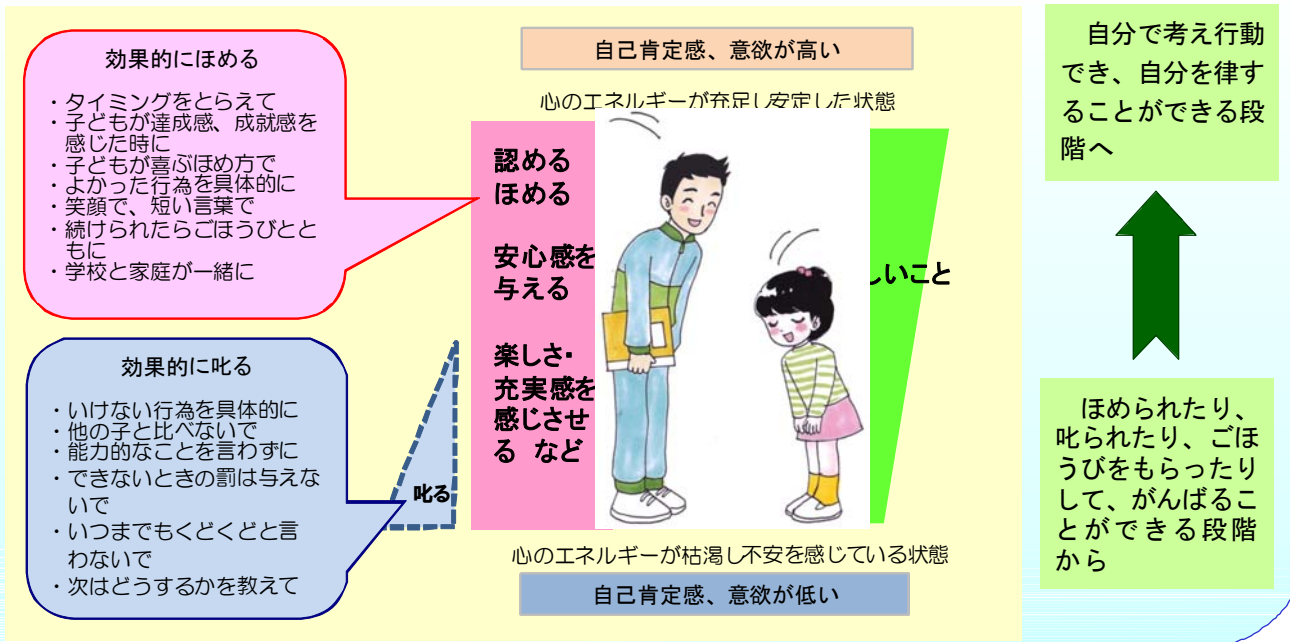
前頁の「見立てる」に基づき、必要に応じて個別の指導計画等を作成し、全教職員の共通理解により組織的に進めることが大切です。そんな時の個人へのかかわり方、集団へのかかわり方のポイントについてまとめています。

Point 1 個人へのかかわり ~自律に向けて~

●心のエネルギーを充足させる●

家庭や学校で「安心して過ごせる」、「自分の気持ちをよく分かってもらえる」、「充実感がある」、「認められる」といった経験が心のエネルギーの源となります。子どもに安心感を与え、楽しさや充実感を感じさせ、よく認めほめることを通して心のエネルギーを充足させることが、指導を根付かせるために必要です。

また、正しい行動が増えると間違った行動は、徐々に減ってきます。



Point 2 集団へのかかわり ~学級経営と授業づくり~

●学級経営と授業づくりは一体のもの●

個別指導を行うためには、それを可能にする集団づくりが大切です。「見立て（児童生徒理解）」を踏まえ、どの子にとっても安心して学べる学級経営と分かる授業づくりの両面から進める事が大切です。



●スモールステップでの積み上げ●

学級経営や授業づくりでは、学級のあるべき姿(長期目標)に向かって、達成可能な具体的目標(短期目標)を明確にして指導することが重要です。スモールステップで一つずつ「できる！」ことを増やしていきます。次の段階へと指導が進めにくい場合には、学級のシステムを見直す(フィードバックする)必要があります。集団の実態に応じてできることとできないことを明確にしながらか進めます。



Point 3 個人と集団のかかわり ～相互作用を生かす～

●一人一人を大切に作る集団づくり●

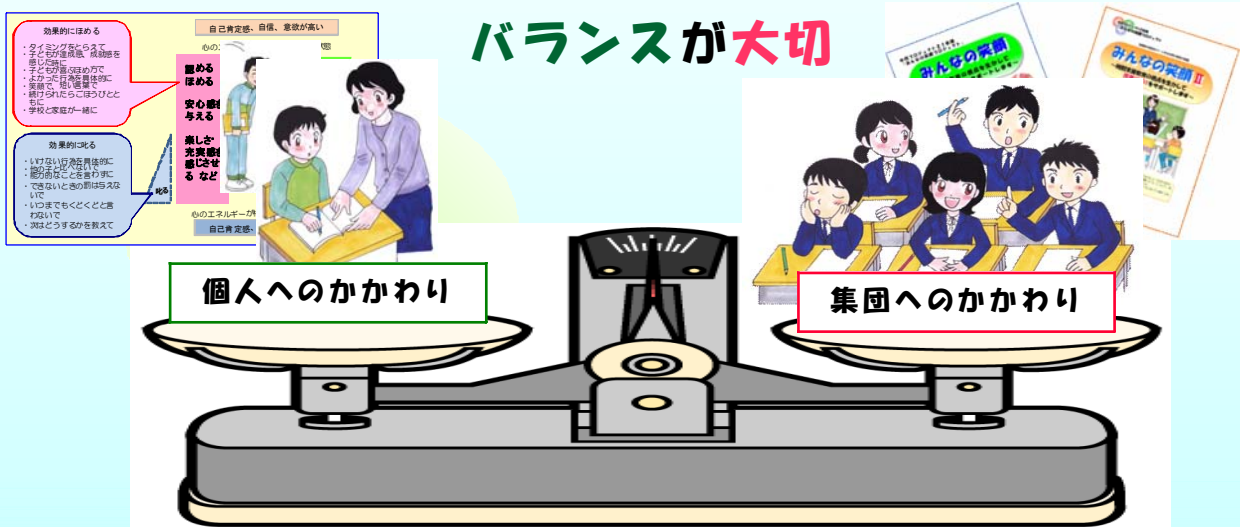
個人と集団は相互に作用し合っています。一人一人の自己肯定感や自信、意欲は、「自分は必要とされている」といった、他者からの賞賛や承認、評価が影響します。一人一人を大切にできる集団の中では、個人にとっても落ち着いた学校生活を送りやすくなります。

上手に声かけができる子どもや共に活動できる子ども、気の合う子どもなど、子ども同士のサポート体制を教員が意図して築き上げていくことが大切です。

だれもが自分の居場所を感じられ、安全で、安心して、学校生活を送ることのできる集団づくりを目指します。

●個人へのかかわりと集団へのかかわりのバランスが大切●

個人へのかかわりと集団へのかかわりととのバランスのとれた指導をすること、また、その相互作用を生かすことで、子どもたちは成長し、社会で自立するために必要な力を身に付けます。集団に支えられて個人が育ち、個人の成長が集団を発展させます。

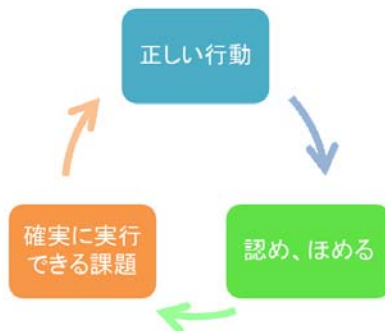


特別支援教育の視点から

発達障害のある子どもの中には、正しい行動を生活の中で自然に身に付けることができず、間違った行動をしてしまう子どももいます。子どもの特性に応じた指導としては、間違いに気付かせるだけでなく、正しい行動を具体的に、丁寧に教えていく必要があります。

適切な行動を導く指導

子どもが確実に実行できる課題を与え、正しい行動ができれば、認め、ほめることを繰り返すことにより、正しい行動が増え、自己肯定感、自信、意欲が高まります。



その子のニーズに合った課題を与えて、できることを一つ一つ増やしましょう。



その他の指導方法

子どもの中には、教員の指示や注意などを聞いても理解しにくい子どもがいます。そのような場合は、右のような方法もあります。

- ・ ソーシャルスキルトレーニング
ロールプレイなどを通してスキルを習得していく方法
- ・ ソーシャルストーリーズ
適切な行動の仕方を文章で示し、一緒に読んで確認していく方法
- ・ コミック会話
漫画の吹き出しの中に適切な言葉を入れて、文字や絵を通して理解していく方法